

日経のニュースを 英語でリスニング 生きた英語で楽しく学習。

日経 LissN 活用セミナー 「生きたビジネス英語をどう学ぶか」



日本経済新聞社人材教育事業局は10月8日、グローバル人材育成セミナー「生きたビジネス英語をどう学ぶか」を開催しました。国内を代表するエコノミストの市川眞一氏（ピクテ投信投資顧問株式会社シニアフェロー）と、人気英語講師として活躍される天満嗣雄先生が登壇し、ビジネス英語スキルを高める具体的な学習法などについて語っていただきました。

日本経済新聞社人材教育事業局では日経電子版などで注目された最新ニュースを英語コンテンツとして配信するサービス「日経 LissN」を提供しています。

市川氏と天満先生は日経 LissN のユーザーです。両講師ともに「英語ニュースを活用することで、日ごろのビジネスに生かせる英語力を身につけることができる」と指摘されています。詳しくはセミナーの講演要旨をご参照ください。



市川眞一氏



天満嗣雄氏

講演タイトル「ドメ型人間が外資系に長く勤めて気付いたこと」 ピクテ投信投資顧問株式会社 シニアフェロー 市川眞一氏

私は大学を卒業して和光証券(現在のみずほ証券)に入社しました。留学経験も全くない、本当にドメスティック型人間で、受験の時も、今でも英語は苦勞しました。94年にフランスの証券会社、クレディ・リヨネ証券に入り、初めて外資系で働く経験をしました。2000年にはスイスのクレディ・スイス証券に入り、19年ほど勤務し、昨年からは欧州のピクテ投信投資顧問で仕事しています。私が日本の会社にいたのは最初の7年間で、その後の26年間は外資系です。そこで英語で本当に苦勞した思い出と、そこから得た教訓を、本日皆さんと共有したいです。

外資系入社直後、How are you?でもパニックに

外資系に入社して最初に衝撃を受けました。入社2日目に廊下でフランス人の支店長とすれ違い、こう言われました。Hi, Ichikawa-san! How are you?

こう声を掛けられたのですが、私は当時、何を聞かれているのかわからず、頭がパニック状態になりました。「そうだ、Fine thank you!と言おう」と思って振り向くと、支店長は30メートル先を歩いていました。苦い記憶です。中学校から大学まで、英語は受験科目でもあり、勉強に苦勞しつつ、なんとかやってきました。ですが、外国人との簡単なコミュニケーションすらできなかったのです。

外資系に入り、一念発起して英会話教室に通うようになりました。それ以外にも英字新聞、雑誌、英語で書かれたレポートなどを必死に読むことを繰り返してきましたが、どれも正直、あまり役立たなかった。比較的良かったのはNHKのラジオ英会話です。聞き流すだけでなく、聞いたものを書きとってきた時期があり、英語を学ぶ上で役立ちました。ただ本当に生きた英語ということでは、日本人のいないところでひたすら英語で議論するのが一番、効果的でした。

「日常会話ならできる」は間違い

外資系に長く勤め、英語で苦勞した末に、自分ではいくつかの結論を見出しました。

まずは後から英語を勉強した日本人は間違いなくネイティブにはなれないということです。「ビジネス英語は無理だけど日常会話ならできる」という人もいますが、それは違うと思います。なぜなら、日常会話のほうがよほど難しいからです。例えば、「日本で安倍首相が退陣し新首相の菅氏が力を入れているのは携帯料金の値下げや地銀の再編などだ。ただ、マクロ経済政策に欠け、投資家は評価が難しい」というのは英語で話せます。しかし、「左肩が今朝からシクシクと痛い」と英語で、と言われても、言えないでしょう。

ビジネスパーソンはビジネスに必要なコミュニケーションツールとして、割り切って英語の勉強をすることが重要です。とにかく自分が仕事でコミュニケーションできるようにする。そういう学習方法が社会人には効率がよいでしょう。

大切なのは「うまさ」より「中身」

そして 何とか話そうとする、意味のある内容を相手に伝えようとするれば、聞き手が英語ネイティブのアナリストであっても聞いてくれるということです。

忘れられない英語のフレーズ2つ



1. That's why you are here.
2. It is amazing that foreign investors tried to listen your terrible English.

自分には忘れられない英語のフレーズが2つあります。

最初のフレーズはニューヨークで同僚に言われたものです。1日に11件か12件ミーティングがあり、昼ご飯を食べる時間もなかったのです。あと2件くらいで終わりかなと思ったら、その同僚がもう1件ミーティングを入れる、というのです。私が「ちょっと疲れている」と言ったときに言われたのがこのセリフ、That's why you are here でした。これは私には非常にインパクトのある言葉で、ふざけるなと思うと同時に、「そこまで言うならやってやるよ」と闘志が沸き上がりました。20年以上も前のことですが、それ以降も自分が疲れていたり、もういやだなあと思ったりする時に、この言葉を思い出すようにしています。

二つ目のフレーズはオランダのアムステルダムでオランダ人の同僚から言われました。外国人の投資家に、日本の経済の状況等を伝えようとプレゼン用の資料を作って、説明しました。それが終わった後、空港に向かう車の中でそう言われたのです。外国人投資家は英語ができないと話を聞かないと思っていたが、お前の話を聞いているのでびっくりしたよ、ということです。少し腹も立ったが、気が晴れた面もあった。「やりたいことがしっかりしていることが、コミュニケーションツールとしての英語を使う上で非常に重要だ」と認識することができたのです。

ビジネスに必要な英語とは何なのか。英語が得意でない私が偉そうに言うのもなんですが、一番大事なことは伝えたい内容です。英語であろうと日本語であろうと何語であろうと、伝えたい内容がしっかりしていればその先は何とかなるということです。

相手を理解するリスニング力をまず、鍛えよ

また、議論をするには、自分が話すよりもまず相手の話を正確に理解することが欠かせません。何を話題にしているのかしっかり把握し、相手に意見をぶつける。そのためにリスニングはとにかく訓練しなければいけない。話す前にまず聞き取れることが大事です。

失敗した例

uranium

『核合意の維持を確認、英仏独やイランが次官級会合』

LissN 9月14日

Meanwhile, Iran has gradually expanded its deviations from the agreement, including large excesses in low-enrichment uranium storage.

(一方、低濃縮ウランの貯蔵量の大幅な超過など、イランは合意からの逸脱を段階的に拡大してきた)

ここで、今でも私が覚えている大きな失敗の例を紹介します。uranium, 日本語で言うとウランです。原子力についてニューヨークでお客さんと話をしていたとき「ウラン、ウラン」と話したが一向に話が通らない。同僚が、私がウランと言っているのが Uranium だと気づき、あなたの言っているのは Uranium だと教えてくれた。何回か言われて分かりました。ウランは明らかな和製英語で、正確には uranium だ。これをちゃんと言うには、この言葉に事前に接していないとわからない。

私は毎日、日経 LissN を聞いて何とかさらに英語力を引き上げることはできないか日々努力しています。9月14日の日経 LissN に「核合意の維持を確認 英仏独やイランが次官級会合」という記事がありました。10年以上前に日経 LissN があり、私がそれを聞いていれば、話の中で「ウラン」と言うことなく、会話の信頼性を高めることができたはずで。

社会人にとっての英語は...

生きるための手段

重要な言葉、単語、イディオムは確実にあります。すべて流暢に話す必要はないが、自分の仕事に使う重要なテクニカルタームはしっかりと英語で話し、伝えられるようにしておくべきです。それさえしっかりしていれば会話・コミュニケーションは十分に成立しビジネスになっていくことを痛感しました。

外国人とコミュニケーションをとるには日ごろから聞き取りをしっかりとやり、自分が話す内容で重要な言葉をしっかり頭に入れておくのが最も重要だと考えています。

「レベル別・モード別 英語ニュース学習法」

天満嗣雄氏

まず大切なのは「量」をやること

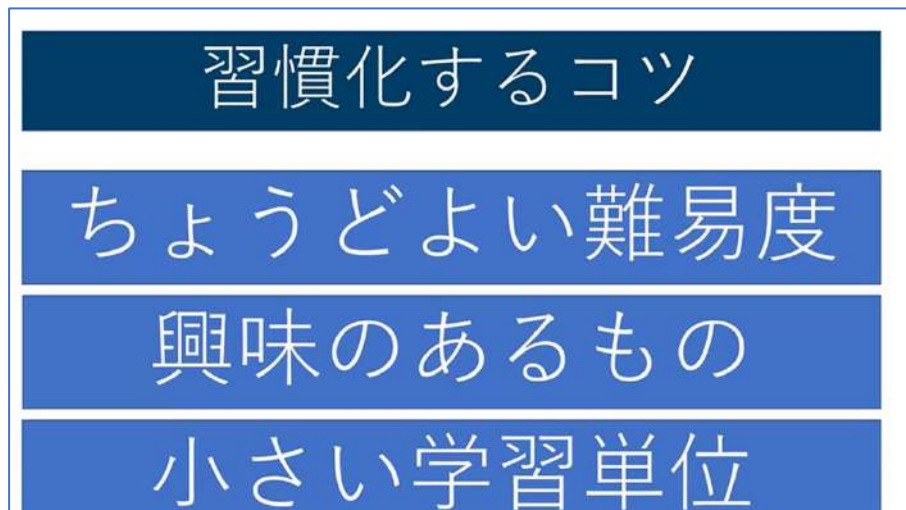


言語習得に必要なものは何よりも量です。私たちは日本語が母語です。日本語は大人だと 1 日にだいたい 10 時間以上も使っている。話していなくてもだいたい思考には母語を使うので、日本語には 10 時間以上も接しています。

英語はどうでしょうか。1 時間くらい英語を使っている人はかなり少ないのではないのでしょうか。学習の仕方によって効果は異なりますが、そもそも量をやらないと、習得は難しい。



私は中学校で英語を学び始める前、NHK のラジオ講座の基礎英語に触れました。1日の講座は20分で、月曜から金曜まで週5日、聴く以外に英語を口にした。講師がネイティブスピーカーの発音を真似してというので、何度も繰り返してやってみました。何度も繰り返し聴き、口にするのを何度も実行することで、全然努力した感触はないのですが、中学・高校において学年ごとの教科書でテキストに出る例文、英文のレベルが口から自由に出せるレベルまで習得できたのです。その時に費やした時間は1日 20 分。続けていることが大事です。量を稼ぐために必要なのはやはり、習慣にすることです。興味があるものを使うのはすごく有効ですし、学習単位が小さいと継続しやすいのです。



そう考えると、日経 LissN はすごく便利です。英語ニュースは役立ちます。難易度は少し難し目で、人によってはめっちゃめっちゃ難しいと思う人もいるかもしれませんが、いろいろなニュースがあり、興味のあるニュースを選べばそんなに難しく感じないはず。ビジネスパーソンの興味にもあっています。日経 LissN だと一つのニュースが2分程度。いろいろ練習をするにもそんなに負担にはならないのです。

無理なく毎日継続できる目標設定が大切

レベル別・モード別に英語ニュース学習法を紹介させていただきます。

「サンデードライバーモード」「宅配ドライバーモード」「レーシングドライバーモード」の3つです。

英語力のレベルではなく、どういった学び方をするかで捉えてください。サンデードライバーモードはとりあえず長期的に続けるのが目標です。仕事のある日は車に乗らず、日曜や土曜にたまに出かけるときに乗るということです。途中で止まらず、毎日ほしいけれど続けることが大事です。ということで、1日の目標は自由に決める。毎日できないが続けていくので、学習教材は好みで決めて頂けたらよいのです。

宅配ドライバーモードではドライバーが仕事をする日は毎日車に乗っているように、毎日続けることを重要視するモードです。確実に達成するには、一日の目標は抑えておいたほうがいい。素材としてはなじみのあるニュースを選ぶことでしょうか。興味がなかったり、知識が少ない分野のものまで全部手を出したりすると、挫折しかねません。

最後のレーシングドライバーモードは毎日やるものです。さらに負荷をかけ、書いたり話したりすることも織り込み、練習メニューを組み立てるといいです。素材は全部使うようにします。日経 LissN は1日に3本の日もあれば5本の日もあるが、目の前のものはとりあえず全部やる、という感じです。

私は、サンデードライバーモードです。本当は宅配にしたいが、仕事が忙しいとかでできない日もあります。それができなかつたら、そのあとで1日、2日かけて補っていくようにしています。

英語ニュース、語彙力の強化に最適

次に練習方法を紹介してみます。日経 LissN を素材に使うなら、いくつか効果的なものがあります。具体的にはリスニング、Dictation、音読、要約、意見・感想を言う・書いてみる、語彙・文法の習得といったものです。



語彙について皆さんに質問させてください。**Novel**、これはどういう意味でしょうか。普通は、小説という意味です。ただ、2020 年は novel という単語は新型という意味

で使われました。「**novel coronavirus**」は**新型コロナウイルス**。ニュースを聞かない日はないくらい出てきます。こういうニュース素材を使うと、語彙修得にはすごく良いのです。単語を覚えるのは簡単ではないのですが、ニュースを追いかけると、その時、その時の話題のニュースで同じ単語が繰り返し使われるので、非常に効率よく学習できます。

effective という単語もあります。効果的という意味で知っている人が多いと思うが、効力を発するとの意味もあり、**effective march 2nd** という使い方をします。日本語だと3月2日付で、です。

この用法はほとんど辞書に載っていませんが、実際のニュースなどに頻繁に出てくる。そんな感じで何回も何回も文脈に登場するのをみていると単語・フレーズの使い方が分かってきます。

リスニングに戻ると、あまりスピードが速いと心が折れるので、最初はゆっくりで始めたほうが良いですね。そのあとで意味を確認する。かなり頻繁にやることなので、一回あたりのハードルを下げ、取捨選択するようにします。

おすすめの練習方法 リピーティング、オーバーラッピング、シャドーイング

- ◎リピーティングはスクリプトを見ながら聴いて、聞こえた音を真似することです。
- ◎オーバーラッピングは読みながら同じスピードで言う練習です。
ぜひ同じタイミングで言えるように練習してください。
- ◎シャドーイングは音声を追いかけるもので、スクリプトは見ません。
練習していくと、すぐに出せるという形でインプットしていただくことができる。
正しい音を覚える一つの方法です。

ニュースの音読で、ぱっと出るフレーズを増やす

要約・意見(を言う)・感想(を述べる)は、上級者向けです。ニュースを聴いた後で、このニュースがどんな内容だったか、自分の言葉で言う練習です。自分で一回、言うというのが大事で、そのあと思い出して振り返りをしてほしいです。そのあと、出てきた反省点を生かしてもう一回やってみる。かなり発言力、アウトプット力がついていくと思う。ニュースを聴いて意見を言う、感想を述べるというの、同じようなプロセスでやっていただくといいですね。

それから、素材として出てきたものの音読をすることで、単語の使い方とか発音とか、そういったものを定着させることができます。思い出そうとしているうちはスムーズに英語も理解できないし、アウトプットに使うこともできないのです。Thank you ということばを考えながら言う人はいません。考えなくてもぱっと出る表現を少しでも増やすことが大事。そのためには音読で定着させるのが役立つはずですよ。

言語習得に必要なものは量です。自分に合った学習のモードを選んでいただき、自分にあった練習方法を取り入れていただく。量をかせぐために日経 LissN を最大限に活用していただくとうれしいと思います。

Q&A セッション

たくさんのご質問、ありがとうございました！

Q)

英語力を維持するために毎日続けている習慣やトレーニングがありますか。無理なく楽しんで続けておられることを教えてください。

天満)

ユーチューブを見ています。興味のあるものを見るのが重要。バスケットボールが好きなので NBA で選手のインタビューとか試合のハイライトをみたりしています。あとはスピーチでしょうか。数多くのスピーチ動画がある TED talks とかで、いろいろな人のスピーチを見たりします。自分の頭の中に思い浮かんだものを英語で表現してみることもするし、同時通訳トレーニングみたいなこともしています。

市川)

聴くのはすごく大事なことです。日経 LissN は毎日聴いていますし、CNN は番組をみることもあるし、移動中にポッドキャストを聞いたりします。これは私たちの仕事上、米国で何が起きているのかリアルタイムに近い状態で知りたいからです。現状を把握することは英語の学習でもあり情報収集でもあります。

Q)

英語学習を継続するコツ(普段使わないと忘れてしまう)とモチベーションアップのさせ方について教えてください。

市川)

必要は成功の母。どれだけ英語を学ぶことが必要なのかがしっかり共有されていると、「それならやろう」という気持ちになります。一番悪い例は昔、上司によく言われたことです。「君ら英語は勉強しなければだめだよ。これからは英語の時代だから。俺はもういいけど」。これは最悪ですね。率先垂範して英語を学ぶことでビジネスにつなげていくことがあると、英語学習の必要性がより理解されるはずです。

天満)

個人の場合、SNS を使うのは結構役に立ちます。TOEIC 学習者の人が「私は…する予定です」と朝ツイートし、夜にできた、できなかったという感じです。同じような人のコミュニティーができあがる、ちょっとしんどいときに「忙しくてできない」とか正直に書くと、周りから励ましの言葉が入ったりすることがあります。大事なのはフィードバックでしょうか。上司が部下にやらせようとして「やれ」ではなく、何かやったことに「がんばっているね」という声をかけるというのが役に立ちます。

Q)

市川さんは日本語で話すほうが楽なのになぜ、外資系の会社に二度も入社されたのか。

市川)

証券会社という金融の世界はどうしても、米国を中心に動きます。私は直接米国の会社で働いたことはないですが、金融の最先端に触れチャレンジなことをやってみたいというのが最大の理由でした。転職をしたとき英語のことはあまり考えず、何とかかなると思い、入った後で後悔しました。生きるために猛勉強をしました。

Q)

TOEFL の勉強をしています。音読・シャドーイングで意味を考えながらするのが大事ですが、意味を考えるのが難しい。コツなどあれば教えてください。

天満)

大事なことは慌てないことでしょう。たぶん TOEFL の素材は単語も構造も難しいものを扱っていると思う。それに慣れないことにはしんどいのでまずはしっかり文を理解する。それで小刻みに繰り返すことをしたほうがいいでしょう。シャドーイングがすごくもてはやされ、言葉が独り歩きしている部分がありますが、それができる人の英語力はかなり高い。その手前の学習者がいきなりシャドーイングをするのは若干無理があります。リピーティングとかオーバーラッピングとか、意味が分かったうえで小さく分けて練習する。それを長いものにして同時に言えるようにしてから最終的にテキストを離す。そのときに意味を言えるようにするというように、段階を踏むのがいいのではないのでしょうか。

Q)

英語で話せるようになることと、英語でビジネスができることとは違うのではないのでしょうか。グローバルビジネスで通用する実践的な「伝える力」の身に付け方を知りたいのですが。

市川)

私のような日本語ネイティブの場合、まず日本語で考えることです。何を伝えたいのかをはっきりさせ、特に英語文化の人に物事を伝える場合は最初に結論をしっかりと出すことが重要です。「世界経済は後退期に入るところだと思う」だったら、後退期に入るところというところから、結論を最初に一回、英語でしっかり書いてみる。それに理由、1、2、3、4と箇条書きにする。そこをきっちり説明していく。なぜなら、これと、これと、これが理由だという風にします。こうして始められると、かならずしも英語が上手でなくても、最初の結論のところに興味をもてば、相手は確実に聞くようになります。そういったことでコミュニケーションが少しずつ成り立ってくると、英語を使うことが楽しくなってくる。日本で聞けないような話も聞けるようになります。

Q)

グローバルスキルの育成について、若手社員や部下に対してどのような指導やアドバイスをされてこられたか教えてほしい。

市川)

相手の文化を理解するのがすごく大事で、そのうえで語学がある。部下がいる場合、上司が率先垂範して英語を活用し、「こういうことができる」という手本を見せるようにすべきです。(連合艦隊司令長官を務めた)山本五十六も「やってみせ、言って聞かせてさせてみて、ほめてやらねば人は動かじ」と言っている。これは戦前の話だが、語学学習に限らず、率先垂範をしっかりと実践していかないといけない。

Q)

私は英語の基礎がなく、何から始めたらよいか迷っています。

天満)

どうしても英語学習というと問題集・参考書を使って「全部わかってから次」という学習をしてしまう人がいるが、それでは遠回りになりかねません。中学高校で英語をやっていたら一通り習っているわけなので、それで実際のコミュニケーションをとってみるのが大切です。日経 LissN を聞くとか、ニュースを読むにしても、分からないところがあれば調べるというアプローチがいいのではないのでしょうか。ただ、文の仕組みでも日本語と英語は全然違う言語なので、すぐに自分が分からない時に調べられるよう文法書を用意するのがよい。辞書も同じで、知らない単語があったときに、辞書でも電子辞書でもアプリでも、何か調べるものが手元にある状態をつくるようにしましょう。

Q)

TOEIC 点数は高いけれど映画を字幕なしで見られない。字幕なしで聞けるようになるための効果的なトレーニング法を教えてください

本ご質問に対して、セミナー内でご回答できなかったのですが、天満先生が、このテーマについて 10 分ほどの動画を作って、ご自分の YouTube チャンネルにアップされました。

ぜひご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=mkdf5JAnOMI&t>



「TOEICでは高スコアが取れるのに映画を聞き取れない」について考えてみた